平成３１年第１回糸魚川市議会定例会会議録　第２号

平成３１年３月１日（金曜日）

議事日程第２号

平成３１年３月１日（金曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　陳情第２号から同第５号まで
日程第３　　一　般　質　問

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　陳情第２号から同第５号まで
日程第３　　一　般　質　問

〈応招議員〉　２０名

〈出席議員〉　２０名

１番	平　澤　惣一郎	君		２番	東	野	恭	行	君
３番	山　本　剛	君		４番	吉	川	慶	一	君
５番	五十嵐　健一郎	君		６番	滝	川	正	義	君
７番	佐　藤　孝	君		８番	新	保	峰	孝	君
９番	田　原　実	君		１０番	保	坂		悟	君
１１番	笠　原　幸　江	君		１２番	斉	木		勇	君
１３番	中　村　実	君		１４番	大	滝		豊	君
１５番	田　中　立　一	君		１６番	古	川		昇	君
１７番	渡　辺　重　雄	君		１８番	松	尾	徹	郎	君
１９番	髙　澤　公	君		２０番	吉	岡	静	夫	君

〈欠席議員〉　　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田　徹君	副市長 総務部長兼務	藤田　年明君
副市長	木村　英雄君	市民部長 会計管理者兼務	山本　将世君
産業部長	見辺　太君	総務課長	渡辺　成剛君
企画定住課長	渡辺　孝志君	財政課長	大沢　喜昭君
能生事務所長	土田　昭一君	青海事務所長	猪又　功君
市民課長	小林　正広君	環境生活課長	五十嵐　久英君
福祉事務所長	川合　三喜八君	健康増進課長	横澤　幸子君
商工観光課長	大嶋　利幸君	農林水産課長	池田　隆君
建設課長	五十嵐　博文君	復興推進課長	斉藤　喜代志君
会計課長	大久保　岳生君	ガス水道局長	木村　清君
消防長	丸山　幸三君	教育長	井川　賢一君
教育次長 教育委員会文化振興課長兼務 博物館長兼務 市民会館長兼務	磯野　茂君	教育委員会こども課長	磯野　豊君
教育委員会こども教育課長	石川　清春君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	小島　治夫君
監査委員事務局長	伊藤　章一郎君		

〈事務局出席職員〉

局長	松木　靖君	次長	山川　直樹君
主査	上野　一樹君		

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、４番、吉川慶一議員、１４番、大滝　豊議員を指名いたします。

日程第２．陳情第２号から同第５号まで

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第２、陳情第２号から同第５号までを一括議題といたします。

本定例会において受理した陳情は、２月２５日に配付いたしました陳情文書表のとおりであります。

ただいま議題となっております陳情第２号は市民厚生常任委員会に、陳情第３号は総務文教常任委員会に、陳情第４号及び同第５号は建設産業常任委員会に、それぞれ付託いたします。

日程第３．一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第３、一般質問を行います。

発言通告者は１３人でありますが、議事の都合により、本日５人、４日５人、６日３人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう、簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。　〔１１番　笠原幸江君登壇〕

○１１番（笠原幸江君）

おはようございます。清政クラブ、笠原幸江です。

通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、人口減少社会に対応したまちづくりについて。

当市の人口は、４万３，１４８人（平成３０年９月末住民基本台帳人口）となっていて、平成３１年２月１日の公報では、４万２，９３０人と、５カ月間で２１８人減となり、人口減に歯どめがかかっていないのが実態です。毎年、人口減少対策事業に対応した事業を展開しているにもかかわらず人口増になっていません。

さらに、人口減少が及ぼす影響は、地域経済を衰退させる原因になりかねない状況であります。

平成２９年度決算の財政健全化判断比率は、対前年度改善となったと分析していますが、次期ごみ処理施設、駅北大火からの復興に要する財政需要の影響により、数値の悪化も予測されています。平成３１年度の主な事業の中に次期ごみ処理施設事業、公共施設や公共インフラの長寿命化、高齢

者社会保障費、駅北大火復興事業や新規事業と事業の拡充などにより、一般会計予算が３０７億円の過去最大規模の予算が組まれ、そのことによって、今まで以上に厳しい財政状況が続くことが予測されていることから、選択と集中を強化し、そのために経常経費の節減を基本に事業の見直しが必要になってまいります。スピード感を持って進めるために、今までの事業分野の見直しを行ったのか、市民に対し痛みの伴う事業の見直しも視野に入れて予測されているのか、それらを踏まえ、市長に考えを伺います。

２、子供の未来と命を守るための対策について。

痛ましい事案が発生しました。千葉県野田市の児童が、虐待によってとうとい命を奪われました。全国的に、このような事案が多くなっていることが、新聞やニュース等で飛び込んできます。「なぜ、どうして」と、理解に苦しむとともに怒り心頭で心を痛めています。

国や県においても事案発生後、重要視し、虐待の根絶に向け全力で、総力挙げ取り組むとしています。早急に対策を徹底する必要性も強調しています。当市においても人ごとでなく、これまでも対応し取り組んでいますが、さらに強化するために、現状と今後の取り組みについて、以下の項目について伺います。

(1) 虐待の相談件数と年齢別の分析は、年間通してどのように推移しているのか伺います。

(2) 相談窓口は何カ所で受けて対応しているか伺います。

(3) 相談員の資格について、児童福祉司の資格配置数はどのようになっていますか伺います。

(4) 虐待を早期に発見、早期に対応するため、関係機関との連携の取り組みについて伺います。

(5) 担当職員の配置を増加する必要があると思います。現状のままでよいか伺います。

(6) 虐待防止策を組み込んだ家庭教育支援の強化を進める必要があると考えます。今後の施策の導入は否か伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

１番目につきましては、今後も人口が減少していく中で、行財政運営は厳しくなっていきますが、引き続き住民福祉の向上に取り組むとともに、健全な財政運営に努めてまいります。このためには、さらなる行政改革や公共施設の適正配置に取り組むとともに、受益に見合った使用料や手数料の見直しも必要であると考えております。

２番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育長。　〔教育長　井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

笠原議員の２番目のご質問にお答えいたします。

１点目につきましては、２９年度が２１件、３０年度が現在３６件で、小学校高学年と中学生の割合が増加しております。

２点目につきましては、こども課が相談窓口となっておりますが、さらに園や学校、子育て支援センターなどの身近なところでも相談を受け付ける体制をとっております。

３点目につきましては、児童福祉司は、児童福祉法の規定によって児童相談所に配置される職員であり、当市にはおりません。

４点目につきましては、１８年から要保護児童対策地域協議会を設置し、児童相談所を初め、保健所、警察、医師会、法務局、人権擁護委員、主任児童委員のほか、学校・園などの関係機関で情報共有と連携を図っております。

５点目につきましては、２８年度以降、相談員を増員し、現在は６人となっており、必要に応じた職員体制をとっております。

６点目につきましては、本年４月から子育て世代包括支援センターを設置し、家庭教育支援についても強化してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

２回目の質問に入らせていただきます。

まず、市長に先にお伺いしたいんですけれども、先日の記者会見で、新年度予算の願いを込めて挑む、いわゆる挑戦の「挑」というものを掲げられました。その市長の描いている挑む、挑戦という字に対してどのような願いを込めて、具体的に何をするために、今までこういう字でお示しすることは市長就任以来なかったかと思うんですけれども、今回改めて出されました。どんな思いで出されたか、まずお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

少しちょっと年数は定かではございませんが、平成２０年ぐらいから行っております。特に今回は、やはりいろんな課題があります。今までもあるわけでありますが、しかし、さらにそういった問題・課題について挑んでいきたいと、そういう私の気持ちをそのような気持ちであらわさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

人口減少というのは、ここへ急に来て激減はしておりますけれども、私が予測したのは、１９９５年、平成６年、総務省の人口推計、国勢調査の基本としたものだったんですが、そのときに、要するに２４年前に５万５，２００人。それから、それを基準にして、２４年前のものを１００として計算して出したんですが、そのときに既にもう糸魚川市は合併後も語られておりましたが、３万人、もう６年後には３万３，０００人という数字を、私見込んで、今まで人口減少社会に対応するためにいろんな施策を打ってきました。でも人口増にはなってないんです。

じゃあ今まで何をするために努力してきた。もう２５年も前から人口減少というのは、極端に下がりますよ。右肩下がりで下がりますよということをうたわれてるにもかかわらず、糸魚川市の施策はそれでよかったのか、間違いなかったのか、そのことについてまず、お聞かせ願いたいんで、もうどんどん下がっていきます。皆さんも予測しました。しかも２０４０年には、２万７，２１１人見込んでます。上がるために、市長は４万３，０００キープするんだとは言ってましたけれども、それキープできないんです。交流人口だけじゃないんです。定住人口がいてもらわないと困るんですが、そのときの施策、方向性は間違ってたのか、間違ってなかったのか、まず確認したいんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。　〔企画定住課長　渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員の言われるとおり、確かに人口減少問題というのは、私がちょうど市役所に入った昭和６１年のときからやっぱり言われておりました。総合計画を挙げても、最重要課題にこの問題というのは掲げております。昔から、前から取り組みをしていました。

その当時は、Ｕターンの促進ですとか、あと子育て給付金ですとか、そういった政策はとってきておりましたけども、なかなか議員の言われるように現状には上向いていくという状況にはなってきておりませんけども、そのときの状況に合わせて精いっぱいの取り組みはしてきたものというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

行政の皆さんは、市民よりも早くそういう情報が手に入ります。それに基づいて施策を打ってくるわけですけれども、今おっしゃられました本当にまだ増になっていないということが現実なんですよね。

先の２０年後は、２万７，２１１人はなるんだということをわかっていつつも、国もいろんな施策を打ってきました。竹下　登さんのときの人口増をするためのもの、あるいは小渕総理大臣のと

きは、ふるさと納税とか、いろんなものを打ってきました。いろんなものを打ってますけど、地方にはなかなかそれが出てきてない。あっと気がついたら２万７，０００に入ってしまうという状態キープしてるんです。

打ってきたけど何らできなかったということなんですが、じゃあこれからどうするか。当然、人口がふえれば財政も厳しくなります。いつも財政は厳しい厳しい、先ほども財政が、さらに人口減に伴って厳しくなってくるということもおっしゃってます。じゃあ何を縮小し、その計画を今されていますか。実際にもう見直しの段階に入ってますか。まず聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

糸魚川市の公共施設等総合管理指針に基づきまして、個別施設計画というのを、この３月にようやくまとめました。総計で２，０００を超える公共施設について、個別施設計画をつくり、施設カルテをまとめたところでございます。これらを公表するとともに、新年度は内容を精査いたしまして、施設の長寿命化、あるいは選択と集中ということを改めて仕切り直しをして再検討していく、見直しを強化していくという方針で進んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

私が、平成１７年の議会に発言の機会を得てから、もうたってますね。そのころから総務財政常任委員会では、この公共施設の見直し、第三セクターのあり方、これをしっかりやらないと、視察に行ったときは、既にもうその地域では、やってる地域がたくさんあったんです。だから早く見直しをしてほしいということも、皆さんもかわられてますけれども、お聞きしてると思います。今つくられて、公共施設の長寿命化計画の策定が今終わって、これからだと言うけど遅いんですよ、遅い。

橋りょう化のほうはできてたのは、私は質問の中でもうできてるということがわかりました。高速道路の公共の問題をしたときに高速道路の橋、あれも高速道路ができたときに、市が修理をしなければいけないというお約束の中でつくったものなんです。糸魚川市内、結構橋が多いんです。もう既に寿命も来て、直さなきゃいけない、だからそのときのために基金を積んでほしいって言ったけど、要りませんておっしゃった。

でも、基金だって大丈夫ですか。あれも今度見直します、これを見直しますというだけじゃなくて、何から着手していくか。第三セクターのあり方、それから今言いました公共施設、糸魚川市は合併後、１人当たりの面積がとても広い公共施設になっております。それをただつくって終わりじゃなくて、もう今スタートしていかなきゃいけない時代に、これから皆さんに公表していって、じゃあそれを誰が担当するかというところも決めて、スケジュールも決めてやっていただけますか。それできますでしょうか。何年かけてやられます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

今ようやく個別施設計画や施設カルテ、整ったところでありますので、新年度からすぐに着手をいたしますけれども、スケジュール的に何年にここまで、何年にここまでというものについても、新年度にスケジュール感を持って進めていくというふうに考えております。行政側から、ここは潰します、ここは統合しますという一方的なものではなくて、なるべく地域の皆さんとコミュニケーションをとる中で、ご了解をいただきながら進めていけるものは進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

行政から、ここはやめます、ここは統廃合しますって、それを切り出すんじゃなくて、今できました、今財政状況が大変厳しくて、このままだともちません。糸魚川市が消滅都市になっちゃったら困りますからね。それから、今お金はこれだけの余裕が、余裕はないです、余裕はないけれども、何とかして皆さん理解してください。

私もう何年になりますか、１０年ぐらい前に視察行った先は、大変職員の方が苦労されました。職員だけではできないんです。トップです。市長です。市長の命令を受けて、各地域に入って説明し、それを何年かけてこうなりたいんで、説明をして、すごいブーイングもあったには聞いておりますけれども、それによって財政を維持、何とか取り戻したという話は聞いてます。その判断するのがトップなんですけど、職員の皆さんじゃないんです。市長、副市長、その市長のやる気を職員に伝えて、職員が市長の命を受けてやらなければいけないということなので、市長どうですか。本当に挑戦する大きな気持ちと大きい願いを込めて、ことしやりました。今、きょう、あすにやれとは言いませんけれども、そういう計画ができてるんであれば地域に入って説明に入るとか、そういう手法は幾らでもあります。

よく市長は、地域に入って懇談会もやってます。今全ての地域に入って懇談会というのをやられてるかどうかはわかりませんけれども、よく懇談会を中山間地に入られてやられてるお姿を聞いておりますので、そういう席に、言葉で厳しい厳しいじゃなくて、実際にこういうことをやらなければ糸魚川市もたないよというようなことを、実際できますか。ぜひ聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

人口減少は、本当に我々にとっては永遠の課題的にはなっておるわけでありますが、それから来

る、やはり財政運営の厳しさというのは重々承知であります。でありますから、毎年の予算編成に合わせながら、いろんな指標を使い、そういったところに我々は、やはりそれを１つのバロメーターであったり、先ほど言いましたように必要というような形の中で使いながら運営いたしております。やはり今住んでおる人たちにとって行政というのはどういう位置づけなのか、そういうことも考えて、将来も当然大事であるわけでありますし、現在お住まいに、まだ住んでおられる方々にとっても、やはり行政というのは大切な生活の潤いの一部であるわけでございますので、そういったところをしっかりやらないと、さらに人口減少が加速するおそれがあるわけであります。やはり住みよい環境をつくりながら、財政をしっかり見定めていきたいということで取り組みをさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それで、財政厳しい厳しいと言ってます。財政調整基金の残高、大丈夫ですか。幾らで何年もつか。緊急なときに出すお金です。いかがですか。

本当に私の記憶では、今１５億ぐらいかな、最初聞いたときは１８億ぐらいありますよということを、今、藤田副市長になられてる方、よく廊下に歩いてると、今は幾らありますかとよくお聞きしてたもんなんですが。今使ってきて１５億ぐらいかなと思うんで、そのときに少ないんですということをおっしゃってました。これで何か突発的なものが起きたらねと、よく心配なされてた、廊下での会話でございますが、今いかがですか。大丈夫ですか、３０７億円の大型予算組みました。足りますか、足りてませんかというのは酷なんですけれども、大丈夫でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

新年度も２億円の財政調整基金を取り崩しまして予算編成をしております。その結果、１３億が残高になろうかと思いますが、また決算を見込みまして、積み戻せるものは戻して、なるべく財政調整基金残すような格好で、なるべく減らさない形で、必要なときに、大雪のときとか緊急の際に対応できる程度の財政調整基金を持ちながら、財政運営を進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

改めてもう一回確認しますが、４万２，０００人の人口でどれぐらいのゆとりが、財政調整基金というのを持ち合わせたら、財政上一番、何といいますか、ちょっとほっとするというか、これぐらいは必要だろうなというものというのは、計算されてるもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

総務省のほうが目安としていますのは、標準財政規模の５％から１０％ということであります。今、平成３０年度でいいますと１５８億円ぐらいが標準財政規模になっておりますので、１５億程度が１０％ということになります。余り財政調整基金とかたくさん持ってると、国のほうから市町村のほうがたくさんお金を持ってるんじゃないかということで、地方の回すお金を減らすぞというような意見もありまして、残高というのは非常にデリケートなところもあるんですが、今、総務省では５％から１０％と、標準財政規模の５％から１０％というところで、糸魚川市は今１３億ということであれば、その中で高い１１％に近いところで今、残高があるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それは総務省の国の基準、方針といいますか、それにのっとってやってるわけでしょ。でも糸魚川市は、総務省が描いてる、こんな広い土地で災害の多いところですよ。土砂崩れがあったり、水害があったり、何が起きるかわからない地形的なものを含めて、何も平地で面積も狭くて、それで国はそういうのを算出するんであれば理解はできるけども、全国広い、その土地土地の地域性というのがある。その地域性というのは認めてもらえないもんなんですか。いつもその計算の１０％だのということを目安をして、市町村に対して厳しくそういうのをチェック入れられてるもんなんですか。そのときにやっぱり地域性というものは、加味されてないもんなんでしょうか、確認お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

財政調整基金の目安というものについては、地域性というものまで総務省のほうでは余り細かくはございません。

ただ、類似団体というようなことで、人口と面積、企業のあり方みたいなところで、類似団体というようなところでの標準財政規模とか指針はあるんですけれども。ちなみにただいまの財政調整基金の残高でいいますと、県内でも糸魚川市はそう悪くないところに今あると。県内のほかがかなり厳しいところが多いという状況ではございますが、糸魚川市は決算で見ましても２０市の中でも４番目ぐらいといいますか、いいほうにあるという状況は言えるんじゃないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それで、よくお話が出る実質公債費比率なんですけれども、大型投資やります。駅北もやります。さまざまな事業がめじろ押しで、借金が３年後ぐらいには膨れ上がってくるんですが、このデータを見ると、実質公債費比率が一番、平成３５年で１６％に上がってくる予測をされてます。さらに１人当たりの人口の借金、ご家庭でいう銀行から借りて、家族で割って、それで見たら我が家はこれだけ今大変だよね。台所事情ちょっと厳しいから、ここ削って何かに回しましょうねと家族会議を開いて、教育にお金かかるし、これからじいちゃん、ばあちゃんにもお金かかるしと言って調整していくんですが、１人当たりの借金が、数字で見ると１００万をちょっと超えてます。１０３万６，０００円、３０年度。これが人口が減れば減るほど、１人当たりの借金がふえてくということも計算されてると思いますが、いかがですか、直近で。一番借金の多い、今ここ平成３０年が９６万３，０００円、それからこれ推移ですけども３１年度に１０３万６，０００円、それから３２年度は１３５万、１人当たりの借金であります。これらはみんな市民にかかってきます。税収も落ちてきてます。そういうものを皆さん見込んで、市民の痛みと、それから見直しも含めて、市長もやってくださる。すぐにはやらないけど、今いろんなものをやっていただくということでありますので、ぜひ本腰入れてやっていただけませんか。駅北大火でもしっかりとやらなければいけないものもあります。何かをやる、大きな事業をやるとき、何かを削らないとできないと私思うんですよ。大きな事業をやるときには何かを、痛みといったらあれですけど見直しをして、そちらの事業のほうにやっていただきたい。

実は、３１年度、産官学連携の高校を核としたコンソーシアム、これも教育委員会です。それから子育て支援センターを、要するに拠点づくりです。これも入ってきます。そうしたら何かをカットしないとできないんじゃないですか。そういう考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

藤田副市長。　〔副市長　藤田年明君登壇〕

○副市長（藤田年明君）

お答えいたします。

笠原議員の言われてることは、本当にごもっともなことだと思っております。現状からいくと、やはり人口減少というのは、今後も続くものと思ってますし、人口減少によってやはり一番大きな課題というのは、笠原議員の質問通告書にもありましたけれども、地域経済の縮小というのが非常に大きな課題というふうに思ってます。

そういう中での行財政運営というのを考えると、当然、地域の中の内需を拡大するというのも必要ですし、外からお金を持ってくるということも非常に重要な部分と思っております。そのことが、やはり内需の振興を担って、人口減少の歯どめにも結びつくものと思ってます。そういう中で、行財政運営を考えると、人口に見合った予算規模というのも必要なことと思っておりますけれども、やはり外からお金を持ってくる、補助金とか交流人口の拡大、そういったものをする中で、進めていかなきゃいけないと思ってます。当然、行財政運営の中では、省くものは省いていかなきゃいけないですし、選択と集中の中で、やはり住民が求める施策、そういったものをしっかり進めていかなければならないと思ってます。それはやはり市だけじゃなくって、国の政策というのも非常に大

きくかかわっております。実質公債費比率の計算にしても標準財政規模のもととなるものは、国のほうで定めておりますので、国の地方財政計画、そういったものの動向、それも非常に大きな重点を持ってます。そういう中で、今後の財政運営を考えたときには、合併したときの基金残高が約７５億、２９年度末の基金残高が、今８６億でしたか、ぐらいとなっております。合併後の状況を見ると、一時期は５０億を切る基金残高の状態のときもありました。今積みまして、ふえてるわけですけれども、どうしても市町村の財政というのは、年によって大きくなったり小さくなったりすることがありますので、そういった基金の活用によって、年度間の調整というのをしておりますので、今後もそういう形でやっていきたいと思ってますし、何よりもやはり、市長言ったように住民の福祉の向上、そういったものを第一に考えて進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大沢財政課長。　〔財政課長　大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

申しわけありません、訂正をお伝えします。

先ほど財政調整基金、県内で４位というふうに申し上げたんですけども、財政調整基金は市民１人当たりでいきますと１１位で、基金全体、他の基金も含めた基金残高でいうと県内の４位ということでございます。

大変失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

一生懸命やってるのを否定しているわけじゃないんですよ。ただ、人口が減っていけば、当然、税収もないし、この予算見ても国に頼らざるを得ないのが糸魚川市でございますので、市税の割合と国に交付金、いわゆる交付金に借金して、またそれをお返しする割合を見ると、どちらかというと国からの支援がないと、糸魚川市が回っていかないというのは、一目瞭然わかります。

ただ、今ここへ来て、今はもう既に他市でもやってます、見直しです。これを廃止にするのか、これは見直しなのか継続するのか、縮小していくのか、何を削って、民でできるものは民で自立してもらうとか、いわゆるそういうものをやれますかということを聞いてるんです。市民会館も指定管理者で民でできるものは民にしてくださいということをお願いしたけど、いまだになっておりません。どなたかやってくださる方がいれば、もう少し今の市民会館の利用度からいったら、活気は出てくるのではないかなとは予測してましたが、残念なことでありますが、そういうことなんです。見直しするのか、廃止するのか。でもこの事業はやりましょうねって、このめり張りをどこでやるのかといったら、市民の福祉と言われれば、何ともお言葉がないんですが。

市長どうですか。統廃合だとか、いろんな含んで、公共施設の長寿命化も出てきます。ぜひやっていただきたいんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

統一しての捉え方というのは今やっとるんですが、個々にはみんなやってまいっております。そして、本当に必要かどうか、そしてまた、やはり地域の要望やいろんな歴史の中で、でき上がってきとるものもございます。そういったことを考えた中で、やはりそれとまた指定管理のお話にも及びました。

しかし、やることによって、経費がうまく好転する部分もあったりもしますので、いろんな観点から１つの基準で全て判断できるものではないと思っております。平成１６年度に合併いたしまして、そういった歴史もあるわけでありますので、そういったところも勘案しながら、住んでる人たちにとってもやはりそういったところをしっかりと連携しながら判断していきたいなと思っておりますが、基本的にはやはりこれからの少子化とか、またいろんな問題があるわけでありますが、そういう先行的なところも頭に入れながら、人口減少社会の中で判断していかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

そういう市長のお気持ちを職員一人一人が財政健全化を意識する。意識して、みずから直面する課題として捉えるその業務の効果、検証、改善、そのものを文言ではうたわれてるんですけども、実際に、市長が職員に任命するときの任命書といいますか辞令といいますか、そのときに、あなたは今これからかかる駅北の拠点施設、これをしっかりやってくださいねというようなお言葉じゃなくて、辞令書にしっかりと明記するもんなんでしょうか。もし今までそういうものがなかったとしたならば、今後、市長、そういうことを職員一人一人に、一人一人は無理かもしれん。部・課長、係長のところぐらいまでは、あんたはこれをしっかりやってくださいねということを明確にうたうことは可能でしょうか、できますでしょうか。今までもあったかどうか教えてください。もしなければ、今後どうですか、やってみたら。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

辞令交付の際にそういった発言はありませんけども、辞令交付の前、３月中に移動した職員に対して、副市長及び総務部長が、市長の意を受けながら、それぞれの職員に対して、こういう課題があって、これに対して期待をしているといった指示等はさせていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

職員一人一人には、面談はしておりませんが、しかし、新年度早々の早い時期に、各課、係の年間の取り組みの中で、重点の説明を中心にしながら、その時間をとって対応いたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

今後、口頭でお話しされていらっしゃると言うけど、今回の、例えばコンソーシアム事業だとか、それからにぎわいの拠点施設というふうにして、明確に打ち出したものであれば、しっかりやってくださいねということで、口頭じゃなくて、辞令書のところに一筆入れて、やられたらどうでしょうかね。そうするとその職員も気概を持って、しっかりやるぞと。こんなことがあったらこうやるぞというような、そういうピンポンというか会話ができればもっとよくなるんじゃないかなと、私は思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。　〔企画定住課長　渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

年度の初めに、それぞれの部署があります、部・課長がいますけども。それぞれやっぱり重点課題というのがあるんですね。そういうものは全てが重点課題だと多くなってしまいますので、ある程度、どこの部署ではこれがやっぱり課題だというものを絞って、それをペーパーにしまして市長と面談をする中で、こうしてほしいとか、市長の意向はこうなんだ。だから部・課長、係長を含めて、こういう方針でやってくれと。そういう形で、全てではないんですけども、ある程度絞り込んだ重点事項という形で、各課には面談をする形で、年度の初めですけども行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

そうしますとある程度、職員の方は意識を持ってやってるんですけど、できたら文書化してもらうと、ずっと自分は、これをいつも見ながら、反省しながら、これに取り組むかなというふうにきます。であれば職員の事務分掌表というのは、実際にあるもんなんでしょうか。誰がどういうものを、どうやって自分が受けてるかというような分掌表というのは、実際あるもんなんでしょうか。ちょっと聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

それぞれ個人ごとに事務分掌表、要は何をするかというのが明確に記載されております。

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員、通告の範囲内でお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

いろんな担当が決まって、それぞれの方がやられるということだから、もしあれでしたら、そういうのって議会に提示することは可能なんでしょうか、不可能なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。　〔総務課長　渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

基本的には内部の中でそういった事業をやるということであります。最終的には、課として、係として何をしていくかということでありますので、それは条例等に定めさせていただく中でやらせていただいてるものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それから、駅北なんですけれども、事業の中でこれから大きな事業になります。木村副市長におかれましては、今定例会が最後になりますけれども、さまざまな知恵、国とのパイプ役、調整役としてハード面、それから４月に入居が始まる復興住宅、これについて本当に感謝申し上げたいと思っております。要望を出しました。なだらかな傾斜を活用した眺望のいい住宅にしていただきたい、復興住宅にしていただきたいということをお話しさせていただいております。そのとおりになりました。中の安心・安全も確保されたようでございます。建設的なものは専門ではありませんけれども、そこににぎわいが戻ってくることを私、本当にすてきな建物を建てていただいたなと思っております。ましてや、訪問診療所という新しい形のものを併設するということなので、画期的でこれを尋ねて、また全国から大勢の方がお尋ね、訪問してくれることを望んでる１人でございます。

残念ていえば残念なのは、これから子育て、若者、キーワードをしております拠点施設、これから入っていくときなんだったんですが、それはとても残念ですが、国に帰られましてでも糸魚川市のことをお忘れにならず、また職員間との連携とりながら、やっていただきたいなと思って、これは本当に感謝でございます。

それから、２番目の質問に入らせていただきます。

子供の未来と命を守るための対策でございます。

先ほど説明していただきました。それで、大変ナイーブな問題だと思うんですけれども、これ糸魚川市の人口の割合で、多いのか少ないのか、先ほどの数字の中でどのように分析されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

お答えいたします。

先ほどの答弁の中で、虐待の通告、相談の件数２１件から３６件に増加したということを答弁させていただきましたが、全県的に見ますと人口の割合に応じて、そういった数字も多くなっているというのが現状です。人口比率に割り返してみると、ほぼ県内どこも遜色ないというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それから、２番目の相談窓口は何カ所ということだったの、もう一度確認したいんですけど、市役所ともう一カ所どこかありましたね。どこで受け付けているのか。

それから、ホットラインというのがあるんですけれども、ホットラインに直接保護者が来るのか、関係の機関の方が電話するのか、中学生、高校生ぐらいになると、ご本人がしてくるのか、その分析はどのようにされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

窓口でございますが、基本的には要保護児童対策地域協議会の調整担当、事務局であるこども課が最終的に相談を集約して、対応しているというところでございます。それ以外でも、教育長答弁にあったように市内の保育園、幼稚園、学校はもちろんですけれども、今ほどご質問の中にありましたこども課の直通ダイヤル、ファミリーホットラインというものもございますし、児童相談所の全国共通の３桁ダイヤルもございます。

こども課の直通ダイヤルへの相談ですけれども、本年度３件ございました。１１月の虐待防止月間に合わせまして、ことしちょっと試みを変えまして、ファミリーホットラインを周知するポケットティッシュを作成いたしまして、中学生の登校時間に合わせて市内４校に出向きまして、登校の途中に何か悩みがあったら相談してくださいというようなポケットティッシュを一人一人手渡しをさせていただきました。以前は、ファミリーホットラインは余り活用されなかったんですが、その成果もありまして、中学生、ご本人からの相談がふえてきているというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

そういう中でお話しできないものは、お話ししなくていいんですけれども、例えば緊急性を要するものというのは、今までの相談の中であったのかどうか。急いで対応しなきゃいけないとか、あるいは私心配してるのは、昼間の時間帯にこういう窓口があるから、夜といいますか夕方以降の緊急性というのは今まであったのか、なかったのか、ちょっと確認したいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

先ほど答弁しました本年度虐待通告３６件とお話ししましたが、その中では、命の危険にかかわるものはございません。相談員が継続的にかかわっている案件についても重度の世帯といいますか、案件はございません。

ただ、３６件の中では、やはり通告を受けるとアセスメントシートによりまして、重症度をまず庁内で判断いたしまして、児童相談所、あるいは警察と連携しなければいけないような案件は、通告をして対応しているというところでございます。

通告は、やはり夕方が多くて、やはり対応が夜にかかるというようなこともしばしばございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

児童相談所は、この地域でありますと上越、県内には５カ所、長岡、中央、新発田、上越、南魚沼というふうにしてなってますが、直接上越の児童相談所に行かれて、それからまたフィードバックするようなことはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

重度の案件につきましては、やはり児童相談所が直接こちらへ来られまして、世帯等へ訪問されて、対応していただいております。児童相談所が対応していただいておりまして、これは市町村で大丈夫かなというような経過を見ながら、今度、市町村にお願いするというような対応をとっております。児童相談所のほうも上越にありますので、こちらに来るというのは時間がかかりますので、一義的には市のほうで対応して、児童相談所の支援を受けるというような格好でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

上越の児童相談所も人数が、もうぎりぎりのところで対応されて、人だんだん多くなってきてる案件から見ると、対応し切れていないのがとても悩みのところだというお話は聞いておりますが、

できたら糸魚川市内で起きたことは糸魚川市の教育委員会、対応していただいて、早期発見、早期対応で、それを取り組む中で、何が一番そこに走らせてしまうのかというのは、原因とかそういうのは分析されてるもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

虐待の要因といいますか、それにはいろいろな要因があるというふうに思っています。親御さんが子供さんとどう向き合っていいのかわからない。また、自分は頑張っているつもりなんだけれども、子供さんがわかってくれないといったさまざまな要因から、そういったストレスがお子さんに向いてしまうというようなことが多いのではないかなというふうに分析はしておりますが、親御さんが孤立しないように、相談員がそこはフォローしていくというような対応をとっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

要保護児童対策地域協議会というのがあるというお話で、そこの事務局を教育委員会がやって、こども課がやってるんですけど、この図面をサークル的に見て、本当に地域の力とはいっても特殊、市民が全部がかかわれるものではないので、そこの連絡というのは年に何回あって、守秘義務も発生してきてますので、こういう協議会というのは、常に会合を持っていらっしゃるのか。年に何回ぐらいやってるのか、まず確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

要保護児童対策地域協議会、略して要対協と言っておるんですが、要対協の会議につきましては、構成員につきましては、先ほど来、申し上げた児童相談所、警察、市内園・学校、また、人権擁護団体、民生委員さん、あるいは区長会などの関係者で構成をしておりますが、年１回の代表者会議を行いまして、虐待の早期発見、早期対応というところを情報共有しておりますし、また、年３回、今度、実務担当者になりますが、うちの要対協で持っている案件についての進捗状況の管理を行っております。それで重症度の判断をして対応しているというような会議もやっておりますし、また、場合によっては個別にケース会議と申しまして、個別の案件について進捗状況なり対応の方法・方策を検討する会議を持っているというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

そうすると要対協と言います、略して要対。この事務局やるだけでも大変なんじゃないですか。準備をしたりとかさまざまな人たちをまとめて会議の案内出したりとか、大変だなと思って聞いてたんで。実際に、でもこの人たちというよりも、市の職員の方が個別に夕方から遅い時間まで対応するということじゃないかなと思うんですけど、その時間帯というのはあるもんなんですか。職員の方が実際に、保護者さんが、そこのおうちに行ってご指導なさるというほうが多いのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

夕方の通報が多いというふうに申しましたが、夜対応するのは、そのうちの数件でございます。それで夜対応するのは、やはり市のこども課の職員と相談員、チームで対応をさせていただいております。

時間帯については、この時間ということはありません。お子さんの命が大事ですので、緊急を要する場合は、時間は言っていられないというふうに思っておりますので、その日に確認しなければならないような案件については、その日のうちにお子さんの顔を見にいって、安全を確かめてくるというような対応をとっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

先ほど市の職員６名とお話をお聞きして、６名で大丈夫ですか。まだまだ忙しいんじゃないですか。子が多くなってくるという話、それから長期的になってる、ポンと生まれてくるもんじゃなくて、１つの事例を抱えると、期間が結構何年もかかるという事案が多いと聞いております。生まれたときからかかわりを持つということになりますと、そこで子供が高校生、あるいは社会人になるまでの間は、ずっとかかわっていかないと、途中でほん投げるわけにいかないですよね。放置するわけにいかないので、そういうためにも私、職員の数いかがですか、ふやされたらどうでしょうか。そこの相談員さんとおっしゃってますけれども、しっかりと対応できるようなシステムをつくっていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

磯野こども課長。　〔教育委員会こども課長　磯野　豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野　豊君）

虐待対応というのは、お子さんの命にかかわる非常に重要な、気持ちにも負担のかかる仕事だと思っています。今６名の相談員にそういった対応をしてもらっていますが、今、現段階では、虐待事案等に対応できる体制だというふうに思っております。ただ、状況に応じて対応してまいりたいというふうに考えております。相談員は、やはり子供の命が大事だということを第一義に一生懸命頑張ってくれておりますので、また年々、資質向上のために、あらゆる研修会にも行ってもらっています。そういった資質向上のところも合わせて考えていきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

いじめもそうなんですけれども、この虐待についても年数がかかるんですよ。だから、職員がこの体制でいいですというのは、余りちょっと言ってもね、言わざるを得んような立場だと思うんですけれども、ぜひいろんな部分でこういう形、支えてあげないといけないんで、人員を与えるところはしっかり与え、カットするところは人員をカットするというような形にしていただければあれだし。

市長どうですか、お聞きになって、虐待があってはならないと思うんですけれど、余りにもとうとい命が亡くなるということは、今は糸魚川市では起きておりませんけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

本当に１件でもあってはならないと思っておるわけでありますが、３６件あるということを聞いて、非常に胸を痛む事柄であると思っております。その中で、今対応しておる人数で、今のところは足りてるということで、それはもうやはり情報共有を皆さんやっていただいておるわけでありまして、足りんということになれば、すぐ増強できる、我々は対応でおりたいと思ってますし、またいろいろ連携しながら、上部だとか、また違う機関とも対応できるようにしていきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

ありがとうございます。当市においてでも人ごとではない。とうとい命が亡くなるということはあってはいけないことだと思っております。

それで、糸魚川市はゼロ歳児から１８歳までの教育一貫方針に沿った施策を展開しております。ぜひこういう機会を捉えて、家庭教育支援をするための条例の制定をされてみてはどうかなというふうに考えておりますけども、そういうことは今考えておらないという返事がくるかなと思うんですけど、教育長いかがでしょうか。家庭教育支援条例の制定、これ改めて、虐待だけじゃなくて全体の家庭を守るための条例だというふうに捉えていただければありがたいんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育長。　〔教育長　井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

当市におきましては、こども課のほうで妊娠届から健診、それから保育、学校、一貫して取り組みはさせていただいてます。そういった中で、体制は整っているというふうに思っていますが、今ほどやっぱり虐待等で課題あるのは、保護者、それから子供さんにそれぞれ課題がある場合が多いというふうに思っています。そういった部分もきちっとこちらで対応してまいりますけども、今ほどご提言のありました家庭教育支援、そういった条例については、ご提言として受けとめさせていただいて、内部では検討させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を１１時１０分といたします。

〈午前１１時０３分　休憩〉

〈午前１１時１０分　開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

吉川議員。　〔４番　吉川慶一君登壇〕

○４番（吉川慶一君）

おはようございます。清政クラブの吉川慶一です。

１回目の質問をさせていただきます。

１つ目、ふるさと納税の現状と当市に与えた財政状況について。

２００８年に都市部と地方自治体の税収格差を埋めようと始まったふるさと納税制度が１０年を経過した。この間、都市部では財源流出、地方では財源確保に返礼品や寄附方法を紹介された。全国自治体では、いろいろと工夫したために寄附額への還元率が高い返礼品が立ち回り、政府としては高額競争しないよう、総務省から見直し通報が通知された。当市のふるさと納税によって寄附された現状と活用された経緯を伺う。